

## はじめに

大阪府教育庁では、平成 26・27 年度の 2 年間、「小・中・高等学校を通じてグローバル化に対応した英語教育を強力に推進し、国際共通語としての英語によるコミュニケーション力の基盤をはぐくむ」ことを目的として、英語教育推進事業を実施しました。その中で、中学校については、府内 7 中学校を研究協力校に指定し、「洋書を活用した英語学習の実践研究」に取り組みました。

本冊子は、各研究協力校の研究成果を取りまとめるとともに、今後の英語教育の方向性や、それを踏まえた授業改善のヒントを掲載したものです。

この冊子が、今後、各中学校で活用され、「習った英語」を実際に「使える英語」へと変容させる授業づくりの一助になることを願っています。



1. 今、求められている英語の授業
2. 洋書を活用した英語学習
3. 授業改善のヒント

# 1. 今、求められている英語の授業

## (1) 知識の習得から、英語によるコミュニケーション力の育成へ

社会の急速なグローバル化が進む中、英語教育は大きな転換期を迎えています。次期学習指導要領では、小学校3・4年生で外国語活動の必修化、5・6年生で外国語の教科化が予定されるなど、国を挙げて英語教育の改革が推進されています。

中学校の英語の授業においても、英語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）をバランスよく、かつ統合的に指導することのさらなる充実が求められています。また、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」（平成25年12月13日文部科学省）で、「授業を英語で行うことを基本とする」ことが示されるなど、授業を“英語を用いたコミュニケーションの場”として活用することが求められています。

## (2) 「英語を使うなにわっ子」を育てるために

大阪府教育庁では、平成23～25年度「使える英語プロジェクト事業」において、「義務教育終了段階で自分の考えや意見を英語で正確に伝えることができる子ども」を育成する授業をめざし、府内50中学校区、101小学校で研究を行いました。

研究の成果については、平成25年8月に冊子「『英語を使うなにわっ子』育成プログラム」として取りまとめ、府内の小中学校への普及を図りました。主なポイントは次の通りです。

- 学年や単元の目標を設定し、その目標の達成に向けてバックワード（逆算的）で授業設計を行う。
- 「習得の時間」で学習した表現を「活用の時間」等で発信することで「使える英語」になることから、「習得」と「活用」のある授業づくりを行う。
- 生徒が達成感、自己効力感を感じられるよう、「何のために英語を使うのか」という目的意識を生徒に持たせながら指導を行う。

「英語の知識をどれだけ習得したか」という授業から、「習った英語を使って、何ができるようになるか」という視点で授業改善を行うことが、ますます求められています